

幼保連携型認定こども園園児指導要録(学籍等に関する記録)

年度 区分	年度	年度	年度	年度
学 級	満3歳児	3歳児	4歳児	5歳児
整理番号				

園 児	ふりがな 氏 名				性 別	
	年 月 日 生					
	現住所					
保護者	ふりがな 氏 名					
	現住所					
入 園	年 月 日	入園前の 状 況				
転入園	年 月 日					
転・退園	年 月 日	進学・ 就学先等				
修 了	年 月 日					
園 名 及び所在地						
年度及び入園(転入園) ・進級時等の園児の年齢	年度 歳 か月	年度 歳 か月	年度 歳 か月	年度 歳 か月		
園 長 氏 名 印	0歳	0歳児	1歳児	2歳児		
担 当 者 氏 名 印						
年度及び入園(転入園) ・進級時等の園児の年齢	年度 歳 か月	年度 歳 か月	年度 歳 か月	年度 歳 か月		
園 長 氏 名 印	満3歳児	3歳児	4歳児	5歳児		
学級担任者 氏 名 印						

幼保連携型認定こども園園児指導要録(指導等に関する記録)

ふりがな		性別	年度	年度	年度
氏名			(学年の重点)	(学年の重点)	(学年の重点)
	年 月 日生		(個人の重点) 満3歳児	(個人の重点) 3歳児	(個人の重点) 4歳児
ねらい (発達を捉える視点)					
健康	明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。		指 導 上 参 考 と な る 事 項		
	自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。				
人間関係	健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。				
	幼保連携型認定こども園の生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。				
環境	身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。				
	社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。				
言葉	身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。				
	身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。				
表現	身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。				
	自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。				
出欠状況	人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。				
	日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、保育教諭等や友達と心を通わせる。				
			(特に配慮すべき事項)	(特に配慮すべき事項)	(特に配慮すべき事項)

【満3歳未満の園児に関する記録】

園児の育ちに	年度	年度	年度	年度
	0歳	0歳児	1歳児	2歳児

学年の重点：年度当初に、教育課程に基づき長期の見通しとして設定したものを記入
 個人の重点：1年間を振り返って、当該園児の指導について特に重視してきた点を記入
 指導上参考となる事項：

(1) 次の事項について記入

- ① 1年間の指導の過程と園児の発達の姿について以下の事項を踏まえ記入すること。
 - ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された養護に関する事項を踏まえ、第2章第3の「ねらい及び内容」に示された各領域のねらいを視点として、当該園児の発達の実情から向上が著しいと思われるもの。
 - ・ その際、他の園児との比較や一定の基準に対する達成度についての評価によって捉えるものではないことに留意すること。
 - ・ 園生活を通して全体的、総合的に捉えた園児の発達の姿。
- ② 次の年度の指導に必要と考えられる配慮事項等について記入すること。

(2) 「特に配慮すべき事項」には、園児の健康の状況等、指導上特記すべき事項がある場合に記入

園児の育ちに関する事項： 当該園児の、次の年度の指導に特に必要と考えられる育ちに関する事項や配慮事項、健康の状況等の留意事項等について記入

幼保連携型認定こども園園児指導要録(最終学年の指導に関する記録)

ふりがな	年度	
	(学年の重点)	
氏名	年 月 日生	
	5歳児	
性別	(個人の重点)	
ねらい (発達を捉える視点)		
健康	指導の重点等	
	指導	
人間関係	上	
	参考	
環境	と	
	なる	
言葉	事項	
	表	
表現	(特に配慮すべき事項)	
	年度	
出欠状況	教育日数	
	出席日数	

<p>幼児期の終わりまでに育ってほしい姿</p> <p>「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼保連携型認定こども園教育・保育要領第2章に示すねらい及び内容に基づいて、各園で、幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、幼保連携型認定こども園の教育及び保育において育みたい資質・能力が育まれている園児の具体的な姿であり、特に5歳児後半に見られるようになる姿である。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、とりわけ園児の自発的な活動としての遊びを通して、一人一人の発達の特성에応じて、これらの姿が育っていくものであり、全ての園児に同じように見られるものではないことに留意すること。</p>	
健康な心と体	幼保連携型認定こども園における生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。
自立心	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。
協同性	友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。
道徳性・規範意識の芽生え	友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したり、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつつたり、守ったりするようになる。
社会生活との関わり	家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼保連携型認定こども園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。
思考力の芽生え	身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたり、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。
自然との関わり・生命尊重	自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。
言葉による伝え合い	保育教諭等や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。
豊かな感性と表現	心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだり、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

学年の重点：年度当初に、教育課程に基づき長期の見通しとして設定したものを記入
 個人の重点：1年間を振り返って、当該園児の指導について特に重視してきた点を記入
 指導上参考となる事項：

(1) 次の事項について記入

① 1年間の指導の過程と園児の発達の姿について以下の事項を踏まえ記入すること。

- ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された養護に関する事項を踏まえ、第2章第3の「ねらい及び内容」に示された各領域のねらいを視点として、当該園児の発達の実情から向上が著しいと思われるもの。
 その際、他の園児との比較や一定の基準に対する達成度についての評価によって捉えるものではないことに留意すること。
- ・ 園生活を通して全体的、総合的に捉えた園児の発達の姿。

② 次の年度の指導に必要と考えられる配慮事項等について記入すること。

③ 最終年度の記入に当たっては、特に小学校等における児童の指導に生かされるよう、幼保連携型認定こども園教育・保育要領第1章総則に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用して園児に育まれている資質・能力を捉え、指導の過程と育ちつつある姿を分かりやすく記入するように留意すること。その際、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が到達すべき目標ではないことに留意し、項目別に園児の育ちつつある姿を記入するのではなく、全体的、総合的に捉えて記入すること。

(2) 「特に配慮すべき事項」には、園児の健康の状況等、指導上特記すべき事項がある場合に記入すること。